

映像監視システム Video Monitoring Systems

ネットワークカメラの付加価値向上技術“映紋”

High Value-added Technology "Eimon" for Network Camera

ネットワークカメラ市場の拡大に伴い、監視映像をセキュリティ用途以外に活用する画像解析機能が付加価値技術として重要性を増している。当社は独自の視点で映像の動きに着目した画像解析を実現する映紋の開発を行っている。

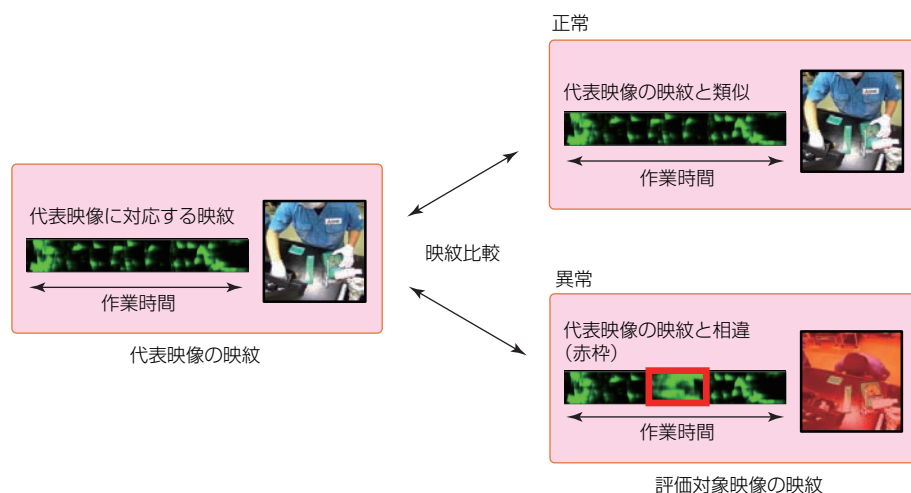
(1) 映紋の原理

映紋は映像データに含まれる動き情報をコンパクトなパラメータで表したものであり、動きの時間的変化を可視化でき、複数の映像の映紋を比較することによって、各々の映像の中で行われる動作が同じか異なるかを判定できる。

(2) 映紋の特長と活用

可視化に当たっては、映像データに含まれる動き情報を活用するため、解析処理が軽く、センサなどの特別なハードウェアは不要となる等コストパフォーマンスに優れる。

映紋の適用によって、作業時間測定や代表映像と異なった作業検知ができることから、リアルタイムな作業現場の状況把握、タイムリーな作業指示が可能になる。更には作業抜け／手順間違いの認識など不良品を作り込む作業を特定でき、品質向上、生産性向上への寄与が期待できる。



映紋の比較による正常作業・異常作業の検知

三菱屋内固定ネットワークカメラ“NC-1000”

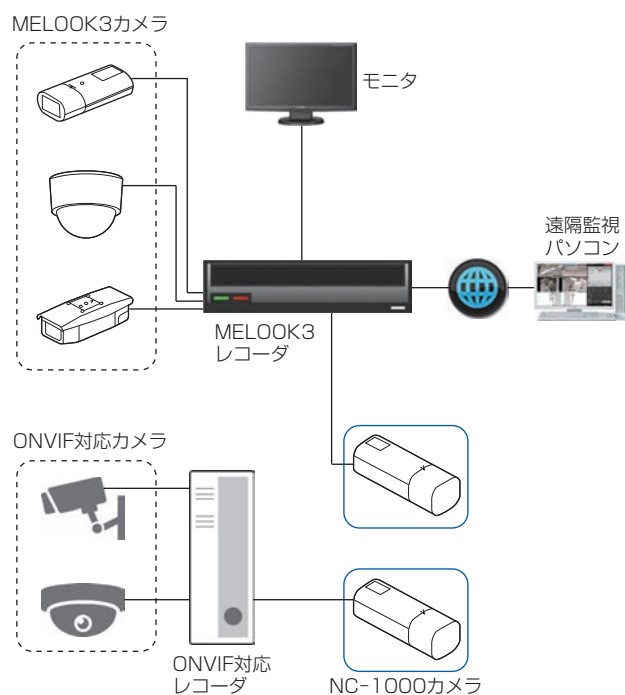
Mitsubishi Indoor Fixed Network Camera "NC-1000"

近年の映像セキュリティに対する関心は非常に高く、屋内・屋外を問わず様々な場面で映像監視システムの導入が進んでいる。今回、監視カメラ市場で高い活用実績がある当社主力製品“MELOOK 3シリーズ”に加え、システム構築の汎用性を高めた屋内固定カメラ“NC-1000”を開発し、当社ネットワークカメラのラインアップ拡充を図った。

NC-1000は、MELOOK 3シリーズと同等のくっきり・滑らかな映像表示を踏襲しつつ、輝度制御や逆光補正など映像監視用途向けのカメラ機能に限定することで、コスト低減を実現した。

さらに、映像セキュリティ機器の共通規格ONVIF^(注) (Open Network Video Interface Forum)を新たにサポートすることで、多種多様なレコーダと接続できるカメラ仕様とし、市場での適用範囲を拡大した。

このネットワークカメラは、映像監視システムの導入コスト削減や、他社カメラ・レコーダとの混在環境構築といった場面で活用可能な機種として、2016年度末から市場投入を開始している。



ネットワークカメラ“NC-1000”のシステム活用例